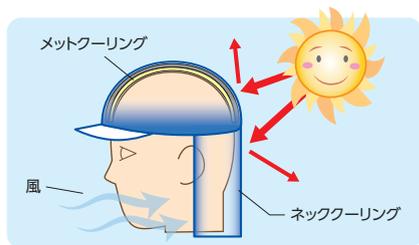


オススメ!

最強の熱中症対策

夏の現場の強い味方!

姉妹品「シャネボウ メットクーリング」と併用することで、頭部と首回りへの紫外線と輻射熱をしっかりガード。夏の屋外作業の熱中症対策にぜひ、ご利用ください。



シャネボウ
メットクーリング



メットクーリング



ネッククーリング

頭と首の**W遮熱**で涼しい、ムレない!

製品の特徴

- 体の昇温に最も重大な影響を及ぼす輻射熱の80%以上をカットするので、首回りの暑さが大幅に緩和されます。
- 皮膚の天敵である紫外線の98%をカットしますので、皮膚にも優しいのです。
- ヘルメットのツバの上部に固定されているので、前かがみの姿勢でも首に輻射熱が照射されません。
- 丈も30cmと長く肩までスッポリ覆われているので暑さを和らげます。
- ヘルメットの外部取り付けなので、首との空間が広く風が流れやすくなっています。
- ヘルメットに取り付けたまま保管、即仕事に取りかかれます。
- 洗濯が出来るので衛生的です。
- 滑り止め付バンドを使用しているので、ヘルメットにしっかり密着します。

仕様

商品名 : シャネボウ ネッククーリング
 型式 : NC-G-5030
 サイズ : 厚さ 0.5mm× 幅 50cm× 高さ 30cm
 形状 : 長方形
 材質 : アルミ蒸着布、布
 色 : グレー

日本製



※品質向上のため、一部素材・色・デザインを変更することがあります。

製造販売元 日本遮熱株式会社

お問い合わせ

0284-22-8740

受付時間: 9:00~17:00(月~金曜日の平日)
E-mail: nihonshanetu@topheat.jp

[本社]〒926-0843 栃木県足利市五十郡町185-2 TEL:0284-22-8740 FAX:0284-22-8741 http://topheat.jp/
[中国四国営業所]〒712-8043 岡山県倉敷市広江6丁目1-15 片岡ビル201号室 TEL 086-456-6600 FAX 086-456-6602



首回りの暑さ対策、熱中症対策
超日陰と空気感がいい!



シャネボウ

ネッククーリング

Shanebou Neck Cooling

なんとなく風を
感じる空気感がいい

シャネボウ
メットクーリング
と併用で
熱中症対策は
万全!

太陽からの輻射熱
80%以上をカット
超日陰

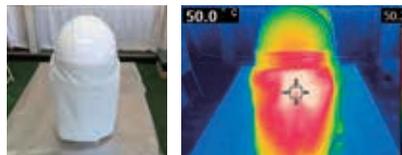
紫外線を
98%カットで
皮膚に優しい

洗濯可能で衛生的

色は昇温しにくいグレーなので、暑さも緩和されるね。

ワンタッチ取付取り外しで便利

ネッククーリング温度検証

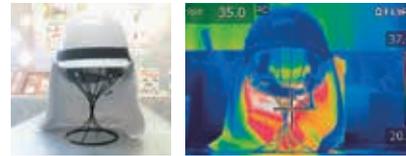


Attention!

何と外側 **50.0°C**でも
内側が **35.0°C!**

15°Cも低下!

※首回りの暑さ対策には最も大きな熱源である太陽からの輻射熱カットが最も重要!!



特許申請中

1. ネッククーリングとは



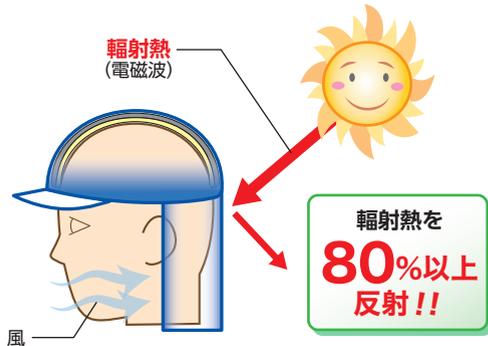
熱中症は、熱が首回りに照射され血管が拡張したり発汗機能がうまく作用しなかったりして体温調整機能がくるい体温が上昇、その結果皮膚の温度上昇、めまい、吐き気、頭痛等を引き起こすものです。

ネッククーリングは、この様な問題を引き起こす最大の要因である太陽からの輻射熱の大半をカットする事により首回りへの熱の照射を阻止し超日陰を作ります。

又、遮熱材で肩までスッポリ覆う事により、首回りの風だまりを作る事になり、顔の周囲から侵入する風を取り込むと微妙な圧力差を作る事が出来ます。この圧力差が、皮膚には移動する空気感として伝達され、僅かではありますが涼しさを助長させます。

2. ネッククーリングのメカニズム

①暑さの最大要因である輻射熱をカット



布の片面にアルミを蒸着した遮熱材の屋外側に布カバーを取り付けた反射ユニットで、縦方向はヘルメットのツバの上部から背中付近まで、横方向は両耳の側面から背面までがスッポリ覆うようにしたネッククーリングです。

太陽からの輻射熱は、屋外側の外布に当たり熱になりますが二次輻射熱としてアルミを蒸着した遮熱材に照射、その80%以上が反射され屋外に放射されます。又、外布を透過した輻射熱も同様、アルミを蒸着した遮熱材にて80%以上が反射され屋外側に放射されます。従って、首の温度上昇の要因である輻射熱の大半はここで阻止されます。

一方、この遮熱材の外側から内側に伝達された熱は、内側が放射率の小さい布のため輻射熱として放射される熱は少なく、大半は伝導熱の形態で首側に伝達されます。伝導熱は、輻射熱の様に熱を発生しないので、仮に皮膚に触れてもそれほど暑さを感じません。

この様に、輻射熱を阻止すれば暑さは大幅に緩和され、超日陰の状況を作る事が出来ます。

②首回りに若干の空気の圧力差

布は、スキマがあるから通気するようですが、ヘルメットに布を垂らしただけでは繊維の抵抗で通気はしません。ちょっと風が吹くと、布がめくれますがこれは空気の圧力によるものです。

ネッククーリングは、縦方向はヘルメットのツバから肩迄、横方向は耳の側面から背後迄通気性のない遮熱ユニットでスッポリ覆っており、これが空気のバリアーとなります。

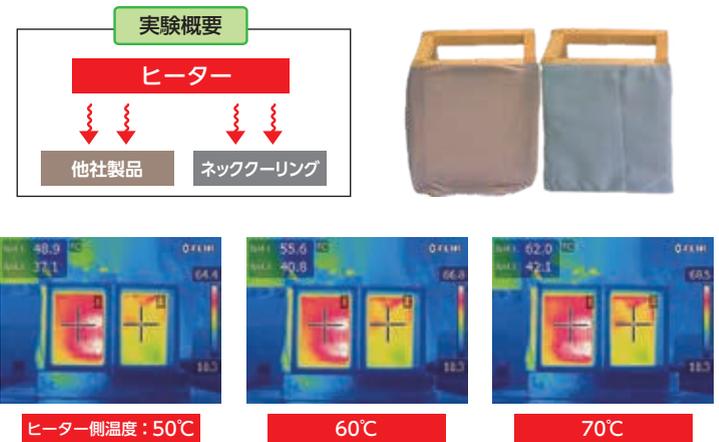
少し風が吹いたり或いは人間が動いたりすると、顔の周囲から空気がこのバリアー内に流れ込み若干の空気の圧力差が生まれ空気は移動します。この空気の移動が、即ち空気感が涼しさを感じさせます。

3. ネッククーリング温度検証(他社製品との比較)

布は、屋外で太陽に浴びると40℃から色によっては70℃近くなる場合もあります。そこで、ネッククーリングをほぼ同様の温度にした場合の温度検証をしてみました。ここでは、他社の布単味のヘルメット用遮蔽商品との比較をしてみました。

ネッククーリングの屋外側温度が50℃の時、他社製品は48.9℃と非常に高温になっているのに対し、ネッククーリングは何と37.1℃と体温より若干高い位でした。熱は高温側から低温側に移動の原則を鑑みても、この状態では屋外の熱が36.5℃の首へ照射される事はありません。

屋外側温度が60℃の時、他社製品は55.6℃でしたがネッククーリングは40.8℃と14.8℃も低い事が解ります。しかし他社製品の場合、布を透過した輻射熱は測定できませんので実際にはもっと差は大きくなります。



ヒーター側温度(屋外側)		50.0℃	60.0℃	70.0℃
首側温度	他社製品 A	48.9℃	55.6℃	62.0℃
	ネッククーリングB	37.1℃	40.8℃	42.1℃
差(A-B)		11.8℃	14.8℃	19.9℃